

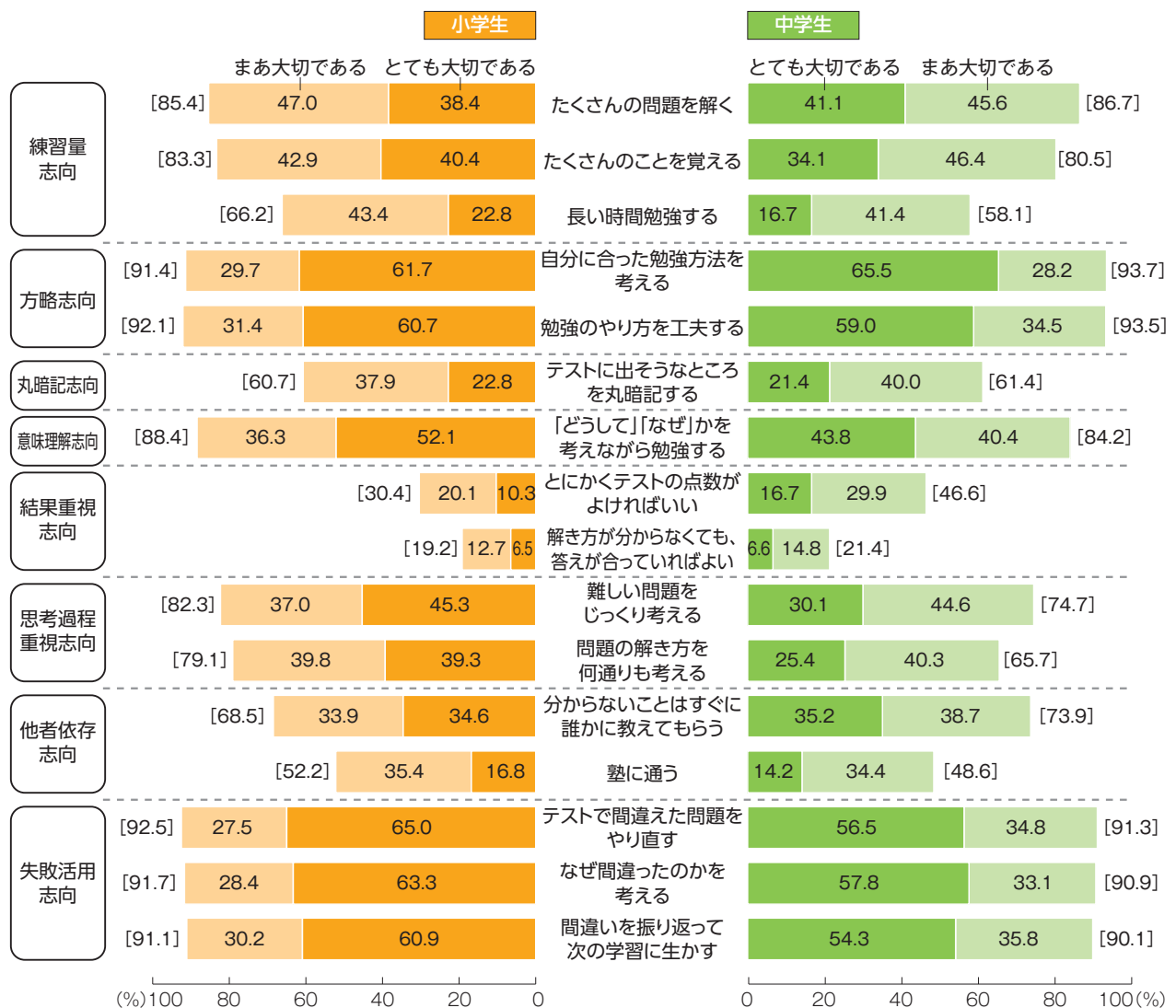
7 学習に対する考え (学習観)

勉強方法を工夫すること、失敗から学ぶことが「大切」と考えている
小中学生は9割。

学習に対する考え(学習観)では、「長い時間勉強する」(小学生66.2%、中学生58.1%)、「難しい問題をじっくり考える」(小学生82.3%、中学生74.7%)について、「大切」(「とても」+「まあ」以下同様)と答える比率が中学生になると低下する。一方、「とにかくテストの点数がよければいい」(小学生30.4%、中学生46.6%)は中学生のほうが15ポイント以上高い。学校段階があがるにつれて、勉強は長い時間をかければいいのではなく、勉強方法を工夫することも大切であると認識するようになるが、定期テストなどの成績をより意識せざるをえなくなる姿もまたこのデータから読みとれる。

Q 勉強について、次のようなことはどれくらい大切だと思いますか。

図7-1 学習に対する考え(学校段階別)



注1) 各横棒の外側にある数値は「とても大切である」+「まあ大切である」の%。

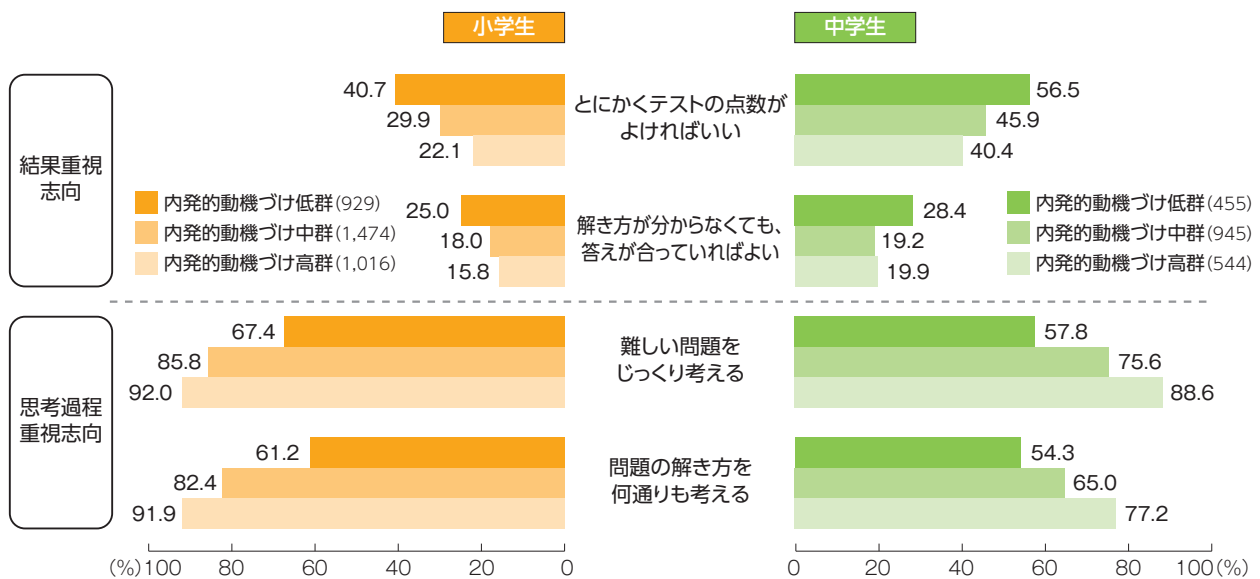
注2) 学習観に関する分類は、東京大学の市川伸一研究室で開発された尺度を参考にしているが、「環境設定志向」にあたるものは内容・名称を変更して「他者依存志向」とした。また、それぞれの志向の質問項目は、ベネッセ教育総合研究所で作成したものである。

内発的動機づけが高い子どもはテストの点数よりも問題の解き方や考え方を重視する学習観が強い。

内発的動機づけが低い子どもは「とにかくテストの点数がよければいい」「解き方が分からなくても、答えが合っていればよい」が「大切」（「とても」+「まあ」以下同様）と回答した割合が高く、内発的動機づけが高い子どもとの間に約10～20ポイントほどの差がある。一方、内発的動機づけが高い子どもは「難しい問題をじっくり考える」「問題の解き方を何通りも考える」が「大切」と回答した割合が高く、内発的動機づけが低い子どもとの間に20～30ポイント近くの差がある。内発的動機づけが高い子どもは学習に対して結果重視ではなく、思考過程重視の考えを持っていることが分かる。

Q 勉強について、次のようなことはどれくらい大切だと思いますか。

図7-2 勉強する理由と学習に対する考えとの関係(学校段階別)



注1) 「とても大切である」+「まあ大切である」の%。
 注2) 勉強する理由をたずねた内発的動機づけ「勉強することが楽しいから」「新しいことを知ることができてうれしいから」「問題を解くことがおもしろいから」の3項目から得点を算出し、内発的動機づけ「低群」「中群」「高群」と3分割した。
 注3) 学習に対する考えをたずねた16項目のうち、「結果重視志向」を問う2項目と「思考過程重視志向」を問う2項目を取り上げた。
 注4) ()内はサンプル数。

基礎知識…学習観

学習観とは、学習に対する考え方や価値観のことである。

非認知主義的学習観	認知主義的学習観
練習量志向 学習はたくさん覚えたり、練習したりすればよいという考え方。	方略志向 勉強のやり方や、自分に合った勉強方法を工夫することを重視する考え方。
丸暗記志向 学習内容を暗記すればよいという考え方。	意味理解志向 学習内容の意味を考えたり、解き方や考え方を確かめながら学習を進める考え方。
結果重視志向 「とにかくテストの点数がよければいい」「結果さえよければいい」という考え方。	思考過程重視志向 結果がよくても悪くても、その理由を考えることが大切であるという考え方。
他者依存志向 分からない時、自分で考えるより、すぐ周りの人や、塾などに頼ればよいという考え方。	失敗活用志向 間違っことで、理解不足に気づき、よりよく分かるようになるという考え方。

学習観に関する分類は、東京大学の市川伸一研究室で開発された尺度を参考にしているが、「環境設定志向」にあたるものは内容・名称を変更して「他者依存志向」とした。